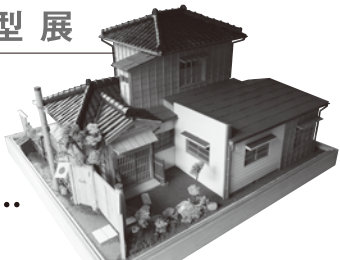


あ か い え 赤ちゃんの家

あの頃、皆で暮らした家は
今も私の中にある…



家と家族、人のつながり…～赤塚さんの模型展示会によせて～

最初にお断りしておきますが、今回の展示会のタイトル「赤ちゃんの家」というのは、「ベイビーハウス」ではありません。「赤塚」の「赤」、「赤塚さんの家」という意味です。

人と人の出会いはそんなものですが、赤塚さんとの出会いも偶然の巡り合わせでした。もうかれこれ13年、今回の会場と同じギャラリーで毎年秋に個展をやってきた私。この施設で開館当初からの15年間、清掃の仕事で携わってきた赤塚さん。二人が出会ったのもこの場所でした。最初は個展の様子を遠巻きに見ていた赤塚さんが、初めて声をかけてくれたのは10年ぐらい前。それから5年ほど経って言葉を交わすようになり、赤塚さんがかつてジャズピアニストだったと知りました。ここ3年間で親しく話すようになり、昔暮らした家の模型を作っていると聞きました。赤塚さんは「いつかこんな風に展示会がやってみたい…」と何度か言葉にし、そして今年正月が明けてすぐに「展示会をやしましょう」と連絡を取りました。



「いつか遊びに来てよ」とずっと言われながら、なかなか何う機会のなかった赤塚さんの部屋に、私が初めて訪ねて行ったのはそんな春先のことでした。男の独り暮らしとは思えない綺麗な部屋に驚いていた私。押し入れに仕舞い込まれていたその家の模型を見た瞬間に惚れ込んでしまいました。そして、それを前にして聞いた赤塚さんのこれまでの人生に驚き感動しました。73歳になる赤塚さんと、30以上も歳の離れた私。二人して、ああしようしようとかワクワクしながら近所の蕎麦屋で話し、今回の展示会の準備を進めてきました。

どんな人にもそれぞれに生きてきた時間があり、思い出の場所があると思います。それはある匂い、光景、音や声、そんな何気ない瞬間に蘇る大切な何か。赤塚さんの記憶の中から生まれた家の模型は、その当時の時間を鮮やかに蘇らせてくれるように感じます。それは、そこに暮らした家族の、生活の、時代の空気のような気がします。

最初にお断りしましたが、実は「赤ちゃんの家」の「赤」は、人が生まれた場所である「赤ちゃん」の家であり、この展示会は、まるで縁もゆかりもなかった「赤の他人」同士が出会う場所でもあります。そしてここを訪れた人が、それぞれの家や自分の居場所、家族、周囲の人たちのことを改めて感じられる機会になれば幸いです。

この場を借りまして、今回の企画に賛同・協力してくださったスタッフ並びに協力者の皆さまに感謝いたします。そして、これからお会いする皆さまに…。

「赤ちゃんの家」製作・企画 吉田了介

赤塚俊雄（あかつか としお）プロフィール

昭和11年(1936)11月11日の夜11時、東京都世田谷区太子堂に2人の姉をもつ長男として誕生。愛犬エスとベル、家族と共に暮らした思い出の家となる世田谷区上馬に引っ越す。間もなく祖母の家である長野県屋代(現・千曲市)で幼い時期を千曲川の音を聞いて育つ。小学校3年になり世田谷の家に戻る。その頃、中耳炎になり右耳の聴力を失う。叔母が音楽教師で、家にはピアノが置いてあり悪戯に弾いては怒られ、屋根に登っては怒られるわんぱくな少年期を過ごす。友人の家のギターやレコードで音楽に触れる。若くして母親を亡くし、父親と継母の間に弟が生まれる(現在、行方不明)。中学卒業と共に家を出て、高校卒業後、叔父の薦めで公務員になり、世田谷区役所に3年務める。平凡な生活に窮屈さを感じて、公務員を辞職。当時「片耳では無理だ」と周囲に言われたが、「なにくそ」と独学でピアノを覚え、プロのジャズピアニストとして新宿の繁華街で活動始める。同時に、故・バブ佐竹のバンドメンバーとして活躍する。新宿のマンションで暮らしていたその頃、結婚し、一児を授かるが、数年で離婚。二人の間に生まれた娘は十七歳の若さで脳腫瘍で他界。時を同じくして大病を患い生死の境を彷徨う。入退院を繰り返したこの頃に、思い出深い世田谷の家が取り壊される事を知り、今は亡き叔母との約束でもあった家の模型を作り始める。その後、突然海外に渡りカナダ北部の街・ゼンザバーで2年間暮らしながら、森林火災後の森に木を植える仕事に従事する。帰国して、現在暮らす東京都新宿区のアパートに引っ越す。急に思い立ち中野区新井薬師に居酒屋「赤ちゃん」を開業。連日連夜、若者や在日外国人のたまり場として賑わい、若者たちに慕われる。その世代を超えた交流は現在も続く。3年で居酒屋を閉店し、現在の清掃の仕事始める。家の模型製作は仕事の休みを部屋に閉じこもって黙々と作る時期や、全く進めない数年を繰り返し、途切れ途切れに進行する。3年前に網膜症を患い左目の視力をほとんど失う。同時に長年吸ってきたタバコをやめる。記憶だけを頼りに自らが発想した身近な材料と作り方で、細部にまで徹底的にこだわって作った二階建ての昭和モダン住宅と懐かしい家具や生活雑貨は、約20年の歳月を経てほぼ完成に至る。そして今年、平成21年(2009)夏、初の一般公開に向けて最後の屋根瓦の制作に着手し、完成。現在に至る。



◆企画・製作／赤塚俊雄・吉田了介

◆企画・製作協力／坂斉 晃・楠田展久

◆写真撮影／小竹順子 ◆映像撮影・編集協力／山崎 綾

◆協力／高木真一・吉田文子・川島直美・林 美保・空箱・チームワークネット

◆レセプション出演／(歌)宮田ゆかり・下原由加 (朗読劇)酒井由貴・榎谷 裕

期間＊2009年7月17日(金)～26日(日)

時間＊10:00～19:00(初日17日18:00～/最終日26日～15:00)

17日(金)初日/19:00～20:00 オープニングレセプションあり

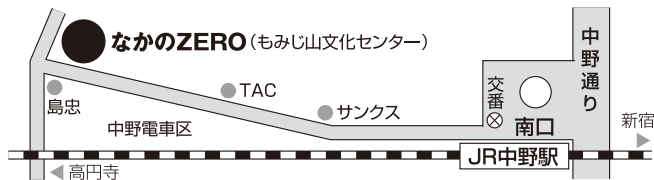
26日(日)最終日/14:00～15:00 クロージングレセプションあり

*開催期間中は家屋等の模型展示のほか、写真パネル展示、映像の上映をしております。

*レセプションは赤塚さんの挨拶・映像作品上映・朗読劇上演・歌など予定しております。

場所＊なかのZERO・展示ギャラリー(本館・B2)

JR中野駅(地下鉄東西線)南口から左へ線路沿い徒歩8分



お問合せ TEL 090-4427-3269 (チームワークネット・吉田)

E-mail twnet@festa.ocn.ne.jp

公式サイト http://www.t-w-net.com/akachannoie



映像作品「赤ちゃんの家」A (約15分)

模型の家の世界から、かつてその家のあった世田谷の街を訪ねる旅人の女の子。そこには移り行く街の景色と、赤い風船を持った小さな男の子が…。過去と現在の時の流れを超えて、旅人は家の思い出を彷徨う。

出演/川島 華・林 寛朗・赤塚俊雄
(ナレーション)酒井由貴 (声)林 美保



映像作品「赤ちゃんの家」B (約45分)

模型を制作した赤塚さんの独り暮らしの部屋を訪ねるルボ。初めて会う女の子に、赤塚さん自身の口から語られる模型の製作秘話などを紹介。そして、模型を制作した過程を通して、家とは何かを問いかける。

出演/田淵真穂・赤塚俊雄ほか

映像製作/坂斉 晃・山崎 綾・吉田了介

朗読劇「赤ちゃんの家」

出演/酒井由貴・榎谷 裕 脚本/吉田了介・文子

ひとりの男が経営する小さな居酒屋に、見慣れぬ女性が訪れる。初めて会う二人だが、いつの間にかお互いの家族の話を始め…。

(上演時間:約15分)

*ワンコイン協賛金募集!

模型の家があった世田谷区で、この展示会の開催を企画しております。企画に賛同して下さる方はご署名の上、入口に設置した協賛金の箱に協賛金を入れてください。

*家屋模型の展示施設(引取先)募集!

展示してある赤塚さんの家の模型を引き取って保存・展示して下さる施設を募集しております。応募が多数の場合は選考させていただきます。応募・連絡をお待ちしております。